

## 「副首都ビジョン改訂版（案）」パブコメ結果

「副首都ビジョン改訂版（案）」に対する府民意見等と大阪府・大阪市・堺市の考え方についてが、4月10日に公表された。募集期間は2月15日から3月16日まで、意見等件数は14者から34件であったという。統一地方選挙に近く、府民の関心もあまりないようで、パブコメは低調に終わった。

私も時間に追われ意見を提出するか迷ったが、レポートで紹介してきたこともあり、締切近くに意見を送った。せっかくなので、私の意見を紹介しておきたい。

1 まずは現行の法律と関わらせて、「副首都」の定義をはっきり示すべきである。大阪府や大阪市が、なぜ「副首都」をめざすのか明確でない。「副首都」なるビジョンが、政治的スローガンになっているのではないか。

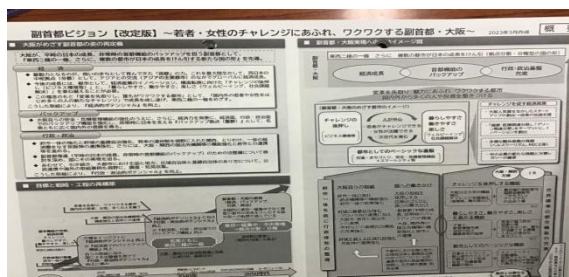
2 人口減少、都市縮退の時代を迎えつつあり、東京の後追いの大都市政策は見直すべきである。大阪市をはじめ、基礎自治体やコミュニティなど足もとからのビジョンづくりこそ求められる。

3（副首都ビジョンの柱の一つだった大阪市廃止・特別区設置が）二度にわたる住民投票により頓挫した以上、この間の政策を真摯に総括する必要がある。今回の改訂版では、副首都ビジョンにより進められてきた制度改革、政策についての点検・評価が欠けており、上から目線の広域的な開発計画が目白押しである。

この3点に絞って私の意見を送ったが、大阪府・大阪市・堺市の考え方は、いつものように通りいっぺんの回答であった。紹介するのも憚れるが、3の回答だけ記録しておく。「これまでの政策については、現行ビジョンによるこれまでの取組を記載し、振り返りを行っています」

二度にわたって副首都ビジョンの柱、いわゆる大阪都構想が否決されたわけで、その原因と結果をきちんと分析することを求めたのである。それなくして、ビジョンの改訂版など、意味をなさないのではないか。こんな調子の回答では、パブコメに意見を提出しようという気持ちが起こらないであろう。

参考まで、副首都ビジョン[改訂版]概要の一部を掲載しておく。統一地方選の結果、大阪府には吉村知事、大阪市には横山市長が就任した。そして選挙直後の14日、岸田政権は大阪IRカジノ計画を認定した。万博に続いて、カジノ誘致により、軟弱地盤の夢洲は揺れ動くだろう。カジノでワクワクする「副首都」になるのでは？



(2023年4月16日)